

セーラー服発祥は名古屋



1921年
ころ



日本で初めてセーラー服を
採用した金城女学校の制服

女子中高生の制服の代名詞とも言えるセーラー服を初めて採用したのは今から約百年前、金城女学校（現金城学院中学校・高校、名古屋市東区）だったことが、日本大商学部（現大商学）の刑部芳則教授（日本近代史）の研究で分かった。通説では福岡女学校（現福岡女学院、福岡市）が最初とされてきたが、実は金城の方が約三ヶ月早かった。

（井本拓志）

「金城」福岡より早く

日大准教授 通説覆す

現在



金城学院中学校・高校の
制服（いずれも同学院提供）



刑部准教授が七年かけて全国約五百校の記念誌などを調査したところ、一八八九（明治二十二年）創立の金城女学校は一九二二（大正十一年）九月から、生徒にセーラー服の着用を義務付けた。

福岡女学校は同年十二月に制服としていた。

明治時代、女子生徒たちは着物にはかま姿で通学していたが、大正時代になって起きた「服装改善運動」で洋装化が進み、セーラー服の制服化もこの頃から全国に広まった。刑部准教授は「毎日異なる着物を着るのに比べて経済的な上、動きやすく、デザインも優れていたためだろう」とみる。

セーラー服はもとは英国の水兵服。日本の明治期、欧州では

既に子ども服のデザインとして取り入れられていたという。金城では米国人女性宣教師の娘が制服化される前から着用しており、なじみがあったことから採用が早かったとみられる。

一方、「福岡説」はいつから何を根拠に通説とされてきたかは、実ははっきりしない。学生服大手のトンボ（岡山市）は自社のホームページで、「一般的にセーラー服と呼ばれる上下セパレート型でリボンのついた洋服を採用し、しかも、それをそのまま継続している学校という点では、福岡女学院が最初だといえます」との見解を公開している。だが担当者は「あくまで通説に沿ったもの。今後の展開次第では修正も検討する」と話す。

金城の当時のセーラー服と現在のものを比べると、白線の数やネクタイの長さに小さな違いはあるものの、ほぼ同じ形。「日本初」と判明し、長屋頼子校長は「これからも制服を大切にし、きれいな着こなしをしていく思いを生徒と共有したい」と喜ぶ。刑部准教授は「セーラー服についてここまで詳しく調べた研究はないはず。金城が最初であることが正しい認識として広まってほしい」と話している。

この記事・写真等は、中日新聞社の許諾を得て転載しています。
2018年5月16日 中日新聞社より